

No.87

2014

2月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区
発行責任者
下井 美紀男
印刷
下市田・キタバヤシ印刷



慶春

五輪招致の際の、滝川クリステルさんの外国語には訳せない「おもてなし」の映像が深く心に刻まれ、改めて日本人の気配りの大切さを思い返した方も多いだろう。

五輪の輪という字は、大勢の人々が加わって円滑に推進していくという意味があると云う。又輪とは、平和の「和」につながると思われる。

元旦は、暖かな年明けとなり厚い雲に覆われ時折り小雨がぱらついていたが、二年参りに詣でる人々の列は絶えなかった。

内平らかに外成るを願ひ命名



五輪招致の際の、滝川クリステルさんの外国語には訳せない「おもてなし」の映像が深く心に刻まれ、改めて日本人の気配りの大切さを思い返した方も多いだろう。

五輪の輪という字は、大勢の人々が加わって円滑に推進していくという意味があると云う。又輪とは、平和の「和」につながると思われる。

元旦は、暖かな年明けとなり厚い雲に覆われ時折り小雨がぱらついていたが、二年参りに詣でる人々の列は絶えなかった。

内平らかに外成るを願ひ命名

された平成になって、すでに四半世紀が過ぎた。東北の震災、原発問題、高齢化社会…、今の社会は、決して平成とは言いがたい。しかし今年も初詣には、抱っこされてくる赤ちゃんも、寒さや多少の雨にはびくともしない小学生や保育園児もいた。この子供たちに緑の美しいこの地域を、温もりのあるこの地域を、そっくり手渡してやらなければならぬ。

今我々に出来ることは何か、一人ひとりで考えよう。仲間と考えよう。そして地域で、町で考えよう。

区長 下井 美紀男

雨、猛暑、そして多くの台風、の到来で災害を心配しましたが、幸い大過なく過ぎました。この冬は厳しい（二度内）に復旧工事に着手してもらえます。

寒波の襲来が (三) 里山整備について、

予報されていますが、平前年度につづいて下市田
 地区への提案があり、区
 として集約化事業を受け
 入れました。予定地は、
 松源寺下から南小下あた

(一) まちづくり懇談会でも多くの質問のあった区有の農業用ため池（堤）の耐震性を含めた危険度について、県からも点検、調査の通達があり、このりまでの約一三haくらいを予定し、関係する山林所有者の同意と県及び森林組合との協定書が整えられました。本事業によって森林税活用によるき

て森林税活用によるきれいな里山に大きく期待が寄せられています。

(四) 国道武陵地交叉点の信号機設置について、ずっとリニア計画に括られつづけ、路線発表からは広域道路計画に委ねられているが、埋没してしまわないよう安全のための大切な要求として取り組みたいと思います。



昨年十一月十日、第三回「松岡城址秋を観る」と思っております。

会」が松岡城址愛護会が主催し、高森町史学会・高森町自然愛護会の共催、高森町・高森町教育委員会・高森町歴史民俗資料館・下市田区の後援を頂き盛大に開催することが出来ました。

それだけに雨の中での準備、交通整理と駐車場の管理、屋内ではお茶の裏千家淡交会と飯田女子高の生徒の皆さん・太鼓・コカリナ・尺八・二胡・歌や紙芝居等々、それぞれの立場で精一杯ご協力

生憎の雨で開催が心配
されましたが、松源寺様
から感謝申し上げます。

のご厚意により本堂始めまた、少々早いと思われ全施設を開放していただいた紅葉も松源寺様の庭の、雨に打たれる紅葉き、過去四回開催した中庭の、雨に打たれる紅葉は一度も経験したことのは素晴らしく、茶席からは素晴らしく、茶席からなかつた雨天の中での開も本堂からも眺めること



が出来、この秋を一層楽しませてくれたのも印象に残りました。

松岡城址でのこのイベントも今回で春秋合わせで五回を数えましたが、

回を重ねる毎に参加者の数も増え、内容も充実して参りました。心から重ねて感謝申し上げます。

なお、松岡城址愛護会は現在約七十名ほどの会員が居ますが、年間の管理作業（草刈り等）に高

年齢のため参加できない人が多くなり、会員以外の方々がのご協力を戴いて残して行きたいと思っています。是非入会いただき、地下市田区三役また代議員の方々のご協力を戴いて残して行きたいと思っています。松岡城址の保存活動をするのでご協力下さい。

土木委員長 上沼健二

私達土木委員会は、一
区二名他区各一名の計七
名で構成し、地区内の道
路・水路等を維持改善す
る為の年度地区計画策定
に於て、工事要望ヶ所の
視察検討に始まり、実施
時の立会い、進捗確認と
いった流れに関わらせて
頂いております。

で捉え、より多くの方が
それを享受出来るような
工事を無駄なく実行する
よう努力してまいります。

『待避所』を設けた事
例です。人も車両も円滑
で安全に、皆様が、やっ
て良かったと実感して頂
けるように、土木委員会
全員気持ちを合せて頑張

その他に、春秋の里道
作りお願い・通学路の除
草作業・融雪剤や敷砂利
せて頂きます。

の手配・舗装補修確認と
手当ても委員会活動とし
て行っております。

委員間の情報共有や問題ヶ所の発見情報収集の場とすべく、委員連絡会議を都度行い、確実な施設環境維持を目指し取り組みでおります。

皆様の要望全てを地区計画に反映し実現させる事は、なかなか叶いませ



ふるさと祭り

「おしるい」お店

夏の猛暑の日 満ちた事が出来まし
差しが穏やかな た。

光に変わる頃、 スタッフは、我々
恒例の「高森ま のリーダー店長に吉
るごと収穫祭」 川副区長さんをはじ
が十一月十六日 め、下市田支館三役・
(出・十七日(日)の 各分館長・主事・支
二日間開催され 館部員の方々と、揃
ました。 いの赤いジャンパー
下市田区では、 とバンダナに身を包
恒例のおしるいこ み、お客様をもてな
店を出店して、 しました。
皆さんのお腹を 本年は、お天気に



恵まれ、大勢の 町民の方々に足
を運んでいただ き、大盛況に終
りました。 初日十六日は、
新米の私は、皆 さんの年に一度
とは思えない位 の慣れた手さば
きを、見よう見 まねで餅焼きを
がんばりました。 翌日十七日は、
初日を越える大 勢の方において いただき、午後
一時過ぎには、 予定の数のおし

るが無料提供できまし
た。 私は、二千五百食を二
日間で提供するの、時
間がかかるのではと思っ
ていましたが、あつと言
う間の出来事でした。
おじいちゃんやおばあ
ちゃんがお孫さんと一緒
におしるいを食べている
光景を見たり、お知り合
いの方々と楽しいおしゃ
べりを見ていますと、疲
れた体が心地よく感じ、
このイベントに参加して
本当に良かったと思う事
ができました。
役員の皆さんご苦労様
でした。(新井千道記)



萩山郷土芸能保存会

幹事長 北原 喜好



以上続く伝統あ
る萩山神社の春
祭りにおける獅
子舞の発表が、盛大に開
催できるよう努めて参る
所存でおりますので、よ
ろしくお願い致します。
さて、春祭りの準備は
例年と同様に一月早々か
ら始まっており、二月に
は神社をはじめ各団体等
との打合わせを実施する
こととなります。開催月
の三月には、一日の執行
部・運営委員会等との合
同打合せ会を皮切りに、
五日の稽古始め、十五日
の区民全戸(各戸一名)
による屋台等の準
備作業を経て、二
十二日宵祭り、二
十三日春祭りの本
日を迎えることに
なります。
両日には老若男
女を問わず、獅子
舞の発表会場ある
いは区民会館等に
足をお運びいただ
き、飯伊地区春一
番の祭りを大いに
盛り上げていただ
くようお願いいた
します。

平成二十六年度 幹事会役員



幹事部長 原 文夫
副 小川 修
獅子部
幹事部長 上沼 春樹
副 小林 靖志
" 矢澤 克浩
" 竹村 進
獅子曳き部
幹事部長 仲平 健二
副 小川 俊雄
相談役 三松 代良夫

幹事部長 北原 喜好
副幹事長 二区 福島 昇
" 四区 牧島 寿明
会計幹事 一区 小平 秀幸
副 " 二区 北沢 治
備品幹事 五区 宮下 芳人
副 " 三区 上村 敏幸
幹事 一区 平沢 卓彦
" 三区 仲平 健二
" 四区 三石 正一
" 五区 小川 俊雄
" 六区 上沼 茂
" 六区 久保田 均
獅子部
幹事部長 原 文夫
副 小川 修
獅子部
幹事部長 上沼 春樹
副 小林 靖志
" 矢澤 克浩
" 竹村 進
獅子曳き部
幹事部長 仲平 健二
副 小川 俊雄
相談役 三松 代良夫

「萩山の郷方言集」出版

下市田史談会会長 原 次郎



下市田史談会では、以前からこの地域に残された方言をとりまとめ、後世に伝えようと、編集委員会を組織し研究に努めてまいりました。

この度この方言集の各方面での活用をはかるため、町のチャレンジ事業の支援を受け、会員皆さんのお骨折りできりまとめがなされ、去年十一月二百部発刊の運びとなりました。

方言は改めて申し上げるまでもなく、一つの言葉が地域により異なると言われておりますが、この伊那谷でも太田切川を挟んで南と北で言葉が地域により異なると言われており、史談会では特に萩山の郷に古くから使われ、



原 次郎

現代では忘れられようとす

今日に至っています。現代は明治以降国内で統一された標準語の使用が強く要され、方言を避ける傾向がみられましたが、最近方言が見直され、使

中心に研究し、とりまとめを行ってまいりました。この中には萩山の郷以外でも使われている言葉もあるかと思いますが、主として萩山の郷を中心として編集をいたしました。

史談会ではこの方言集を「萩の郷文化祭り」には未発行のため希望者から受注し、町の文化祭では刊行された方言集を配布、また学校・社会教育での活用を願い、町・小学校・教育関係部署へ教育長を通じて贈呈、下市田区へは区三役・代議員、公民館支館へは各区分館長まで贈呈配布をさせていただきました。

どうかこの方言集発刊を契機に、この地区の温かみのある言葉による生活文化の特異性を残すことができれば幸いです。

なお編集にあたり不慣れのためにまだ脱落しているものや、すでに標準化しているもの

なご編集にあたり不慣れのためにまだ脱落しているものや、すでに標準化しているもの

防災研究について
自分の身は自分で守る

3分間・3時間・3日間

三区防災委員会 三浦喜久夫

3・11の未曾有の大震災から三年。そして毎年日本各地で自然災害が起きています。幸いにしてこの伊那谷は36災以降大きな災害に遭うことなく平凡な生活が出来ることに感謝したいものです。

しかしながら地震その他の災害はいつ自分たちの身に襲いかかってくるかわからないのが現実です。

もあり、お赦しいただいているところです。

終わりにこの冊子の手持ちがございましたので各区役員に閲覧をお願いするか、町・教育委員会へ「PDFファイル」を提供してありますので活用できるかと思ひます。



「萩山の郷方言集」

自然災害は気象情報収集の進歩により、ある程度の予測は出来るものではないこと。自分の身は自分で守る。自分たちの地域は自分たちで守る。力行会では防災キーワード「3分間・3時間・3日間」を掲げました。

その中で三区力行会では、防災に対する意識を高め、有事の際はあわてず落ち着いて対応出来るように初動マニュアルを作り、自分達の地域にどんな危険が潜んでいるのか知るためのハザードマップ作りを二年前から検討を始め、第一段が完成しました。それを基に防災意識を高めるための訓練を始めます。防災は生活している以上終わりがありません。

毎年訓練をするこ

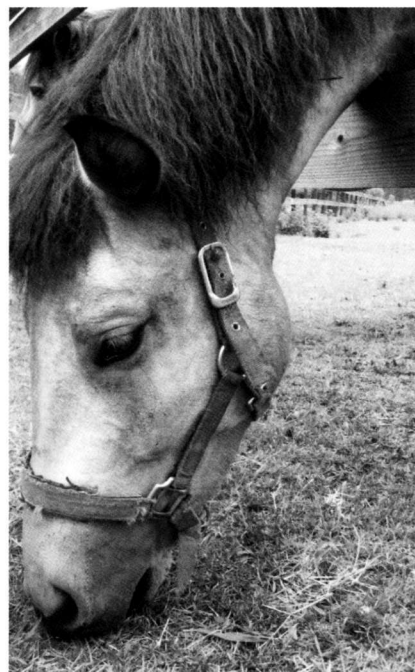
とであわてずに避難できる。そのことが第一の目的です。災害に立ち向かいくい止めることは出来ま

止めることは出来ま



特集

正月写真集
千年飛躍の年に



お雑煮を
食べてふる里
懐かしむ
おかあさん
馬車馬のように
家事こなす



親戚が
一同集まり
おもてなし

思い出を
運んでくれる
年賀状



どんど焼き
力を合わせて
さあ準備
孫の編む
「おやす」も束ね
どんど焼き



薪作り
くゆる炎に
いやされて
縁起餅
食べて今年も
良い年に



新藁の香り
清しく
おやす編む

正座して
松飾り編む
巫女めきて



ようこそ下市田へ

下市田のみなさん

こんにちは

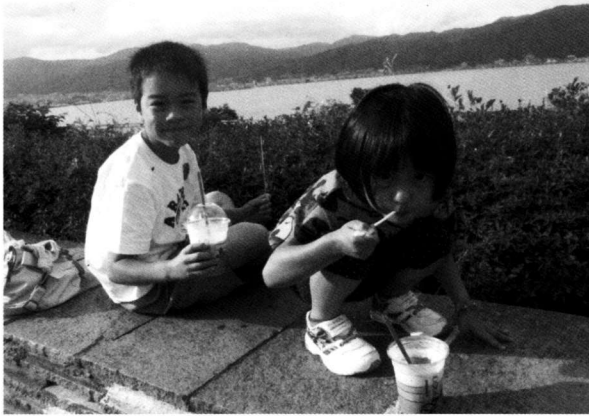
三区 片桐香苗

赤石山脈を目前に眺め、子供のおかげで多くのおことが出来る、力北一知り合いができて嬉しく常会でお世話になって三思います。

年目になりました。主人長女は、吉田河原保育と、四月から四年生になる園でお世話になっており長男、一年生になる長女と四人暮らしをしています。以前は、アパート暮らしをしておりまして、今から楽しみにしています。

下市田の皆様、これからお世話になります。宜しくお願い致します。

長男は、町のスポーツ少年団のサッカー部に所属しており、水・日曜日の練習や、県内県外への遠征に参加もさせていただいで、三年生ながらにして、いろいろな体験をさせていただいております。そのおかげで、同年齢だけでなく、上・下級生でもた



歴史に学ぶ

四区 玉置淳一

中で、教訓を得、よりよい社会を構築し続けてきました

『祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり。娑羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。』これは、有名な平家物語の冒頭の一節です。この冒頭は「歴史は繰り返す」という言葉を総括的に言い表しています。

人々はその繰り返しの歴史に学ぶ」は、今後大切にしたいことですが「歴史は繰り返す」は、私達のこの時代で終わりにはしたいことです。今の日本も過去の過ちの反省をもとに、よりよい社会を目指し、一人ひとりの人権や思想信条を大切にして、武力による



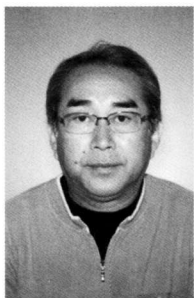
随想

定年後の生き方を求めて

六区 北澤明

三十八年間の勤めを終えて二年がたとうとしている。その三十八年のなかで得た事実を振り返り、これからは頑張るべきではないかと思う。

楽しいことより辛いことの方がはるかに多かった。しかし、辛いことによって自分は鍛えられた。逆境に遭遇したとき、愚痴や弱音を吐きたいのをぐっと歯を食いしばり、



生きていくには人と関わりをもたねばならない。しかし、関わりの裏には、誤解や猜疑などが存在する。それが表に出てくる



解決法をとらないという人としてごく当たり前の発想を礎としてきました。ところが、昨今の日本には、「歴史は繰り返す」を地で行くような暗雲が立ちこめ始めているように思えてなりません。

よりよい社会を構築するためには『乱暴に物事を片付けてしまふよりも

着実に行う方が最終的に効果があること。厳しい態度で相手を動かそうとしても、かえって頑固になるが、暖かい優しい言葉がけで、自分から動いてくれること。』という歴史文化の一つイソップ童話「北風と太陽」の教訓に学ぶことが大切ではないでしょうか。

と、人間関係をぎくしゃくさせてしまふ。安定した関係を保つために、コミュニケーションづくり

に努め、相互理解を図る。他者受容の雰囲気づくりを行う。一人ひとりが大事にされ、存在感が実感できるようにする。

人相手の職場だったので、人間関係トラブルは日常茶飯事。エスカレーターすれば、いじめにつながる。早目早目に察知し、関係改善の支援を迅速に行うことが大事である。対応の基本は、思わしく

最後に、権利ばかりが主張され、「権利と義務」の意識が低下してきた。自戒として、奢りや傲慢さを慎み、聡明・愛他に努めたい。そうすれば、今までの人生をちょっとはステッパアップさせられるかもしれない。

障害と部活への思い

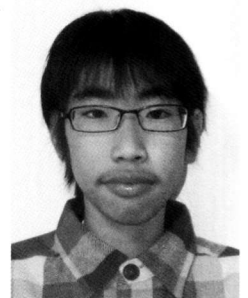
中二 木村涼雅（二区）

なければなら
ないことが多
くなりました。

僕は、生まれつきの脳

梗塞で左半身が不自由で
す。左手は物を持つこともやっとで、左足は強く
ふんばることができないので、何をするにも、み
んなより頑張らなければならないことばかりです。
小学生の頃なら、自分なりに頑張るだけでほめ
てもらえました。が、中学に入ってから、障害が
あることに関係なく、み

んなと同じように頑張ら



も何度もありました。

でも、日々の練習を続

け、大会にも出場させて

もらい何度か勝つことも

できて、少しずつ自信が

持てるようになりました。

これから、少しでも

結果を残せるように、最

後まで頑張って部活を続

けていきたいと思っています。

ほかに、イベントチー

ムではピグ

ブーのエサ

を作り、ふるさと祭り

ピグブーとの思い出

小六 仲平この美（三区）

野菜チー

私達は、クラスの総合

授業で豚を飼育してきま

した。豚の名前はピグブー。

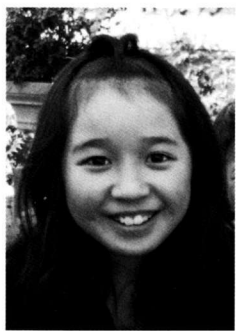
毎日、毎日、ピグブーの

気持ちを考えながら、み

んなで小屋そうじをして

きました。

水をかえたり、フンを



地域の紹介

五区の紹介

五区自治会長

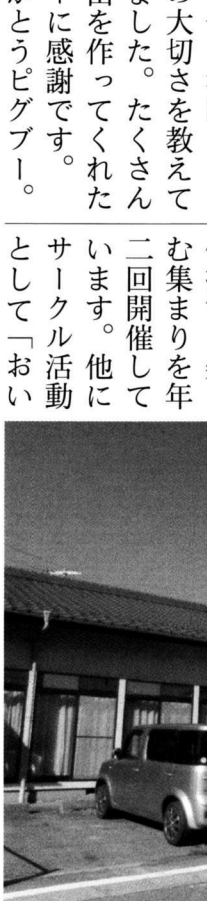
佐々木啓登

昨年四月から
自治会長を勤め
ています。副自
治会長から都合
四年間自治会運
営を担うわけで、大変な役回りと思っ
ています。五区の人口は六百六十
人、世帯数二百七戸、自
治会加入戸数が百四十戸
といったところです。

地域の「協調」「融和」

ムでは、全校のみなさん
に、ふれ合い体験をして
もらいました。そんな日々をのりこえ
とってものはかった百四
十三日間をみんなは本気
でやってきました。そして、最後にみんな
で決めたのは、『出荷』で
す。とても辛い決断でした
が、命の大切さを教えて
もらいました。たくさん
の思い出を作ってくれた
ピグブーに感謝です。

ありがとうございます。

「親睦」をモットー
にふれあい、交流
を中心地域に結
束を図っています。昨年の町民運動会で、前
年に続いて優勝すること
ができました。これは地
区住民の正に協力、団結
の賜物と思います。過去
に遡っても上位の成績を
残していることを考えれ
ば、下市田五区の伝統の
力、五区の魂の現われで
はないでしょうか、この
気概を繋げたいものです。主な自治会事業として
は「おいしいお茶だに」と
題して、高齢
者を主とした
交流会（近年
は保育園児・
小学生も参加
してくれるよ
うになりました
が）お茶・
食事をしながら、講演・踊
り・歌・健康
体操等を楽し
む集まりを年
二回開催して
います。他に
サークル活動
として「おいわたしの作文
ぼくの作文

片付けたり、えさをあげたり、ワラをかえたり、とっても大変な日々でした。話し合いをたくさんして、グループを作りさまざまな事をしてきました。

地元施設の紹介

高森町公共下水道

高森浄化センター

当初計画された下水道網整備が終了し、町全体での水洗化率は昨年三月末時点で八七・五％です。

高森浄化センターは、下市田五区の下段に位置し、敷地面積二万四千㎡、最大処理能力を一日四千百とすの施設として現在運転されています。

公共下水道については、平成七年に事業着手がされ、平成十二年に供用開始となりました。また、農業集落排水、公共下水

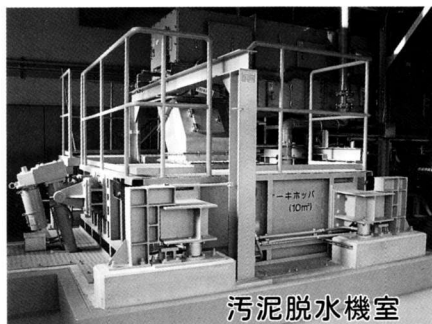
道以外の区域を合併処理浄化槽設置区域とし下水処理が行われています。

当初計画された下

吹中下段地域の家庭や事業所、公共施設の下水が集まり、現在二千戸の各家庭からの下水を中心に一日約千六百とを処理しています。



汚泥ポンプ室



汚泥脱水機室

雨水の処理は含まない分流方式で生活排水等のみを、活性汚泥法による微生物の力を利用して処理し、公共用水域の水質保全の面からも適正な下水処理をして、最終的に天竜川へ放流しています。

施設での適正で持続的な下水処理については、利用する皆さんの心がけ

編集委員会研修旅行

三河の旅

十一月二十四日、区民會館を総勢十八名にて南知多方面に出発しました。

最初の目的地、熱田神宮では、参道を歩いてい

ると、幸運にも結婚式の一行に遭遇。花嫁の白無垢姿に見とれつつ本宮へと向かい、旅行の安全等を祈願し参拝しました。

次に、キリンビール名古屋工場を見学しました。敷地内には生ビールのジョッキに見立てて塗装された巨大な貯蔵タンクが何十本も林立。そのタンク一体だけでもレギュラー缶の



が大切です。薬品など有害なものは微生物が死んでしまします。野菜屑やビニール袋・天ぷら油等は、下水道管の詰まりの原因となります。一人ひとりが下水道を正しく使用し、今後もより良い生活環境づくりを心がけましょう。

（高森町環境水道課）

区民會館大掃除

十一月二十四日、区民會館を総勢十八名にて南知多方面に出発しました。

最初の目的地、熱田神宮では、参道を歩いてい

ると、幸運にも結婚式の一行に遭遇。花嫁の白無垢姿に見とれつつ本宮へと向かい、旅行の安全等を祈願し参拝しました。

次に、キリンビール名古屋工場を見学しました。敷地内には生ビールのジョッキに見立てて塗装された巨大な貯蔵タンクが何十本も林立。そのタンク一体だけでもレギュラー缶の



様々な行事で地域の皆さんが利用されている区民會館の大掃除が、師走に入った十二月一日に、各区の分館長・主事・支館三役・支館部員で行われました。

一年の汚れをきれいに掃除。各部屋をはじめ、トイレ・台所、普段掃除できない外回り、窓ふき・蛍光灯の掃除など、皆さんの協力と、手際良い作業できれいになりました。

これからも地域の皆さんに、気持ちよく利用して頂けたら嬉しく思います。

（大沢紀子 記）

編集後記

下市田史談会で地元の方言を取りまとめ、「萩山の郷・方言集」が完成し、昨年末に発刊された。

方言集を見ますと以前使われた地域の言葉、会話に對し「今は使わなくなったなあ」と懐かし

一方、正月のおせち料理を始め、しめ縄・門松等の飾り付けや諸行事についても簡素化したり、省略して来ている。

方言や慣習が変化したり、なくなることに一抹の寂しさを覚えます。

日本では年末の行事になつてゐる大掃除。一年の感謝の気持ちも込められてゐるのでしょう。

（大沢紀子 記）